

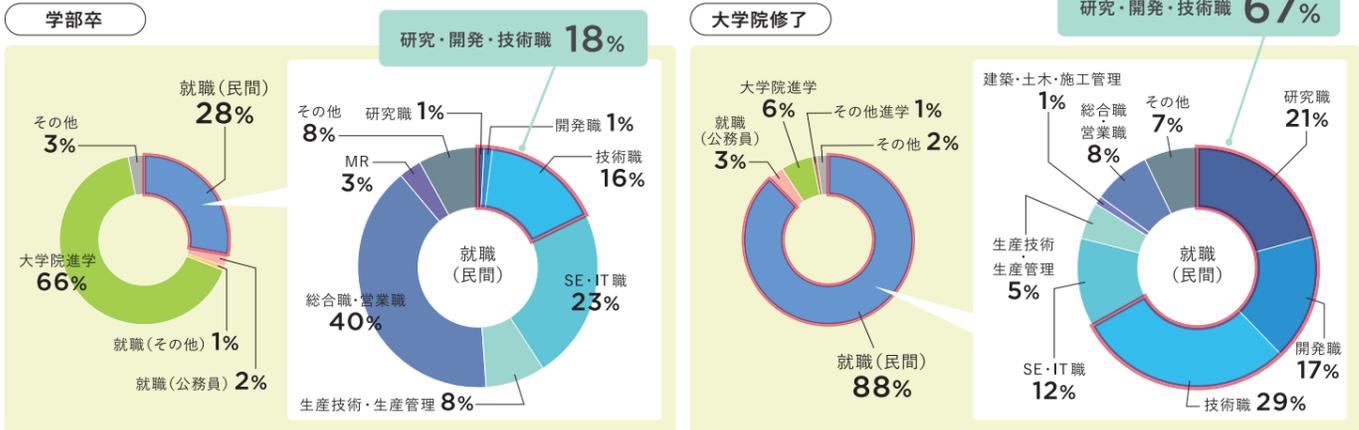
立命館大学大学院 生命科学研究所

RITSUMEIKAN UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
LIFE SCIENCES

GUIDE 2025

博士課程前期課程

学部卒と大学院修了の職種別就職状況



2024年3月修了者の就職先例

[応用化学コース]	[生物工学コース]	[生命情報学コース]	[生命医科学コース]
TOPPAN (株)	(株)カネカ	(株)日立製作所	シスメックス(株)
積水化学工業(株)	森永製菓(株)	日本電気(株)(NEC)	大塚製薬(株)
三井化学(株)	理研ビタミン(株)	富士通(株)	テルモ(株)
ソニー(株)	タカラバイオ(株)	楽天グループ(株)(エンジニア職)	ユニ・チャーム(株)
日東電工(株)	国家公務員一般職(農林水産省)	(株)島津製作所	国家公務員総合職(厚生労働省)

博士課程後期課程

博士課程後期課程への進学

生命科学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。(2024年度在籍者数：1回生11名、2回生11名、3回生以上10名)

修了数	就職先				
	民間企業・団体	教育研究機関	学校教員	その他	
2019卒	6	2	4	0	1
2020卒	13	4	4	0	5
2021卒	4	0	3	1	2
2022卒	4	3	2	0	0
2023卒	9	5	2	0	2

2024年3月修了者の就職先例

積水化学工業株式会社
大東化成工業株式会社
BASF 戸田バッテリーマテリアルズ合同会社
東レ株式会社
大学等の教育研究機関(奈良女子大学、産業技術総合研究所)

博士課程後期課程学生へのキャリア支援制度

本学では、博士キャリアパス形成を進めるために、各種講座・セミナーの開催や企業とのマッチングセミナーを開催しています。所属研究科で専門性を高めるとともに、社会で活躍するために必要な力やスキルを身につけることができます。

問 RARA オフィス

- 博士人材育成コンソーシアム
- ジョブ型研究インターンシップ・プログラム
- 若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF ※広島大学主管



4つの学問の 融合と連携で広がる 無限の可能性

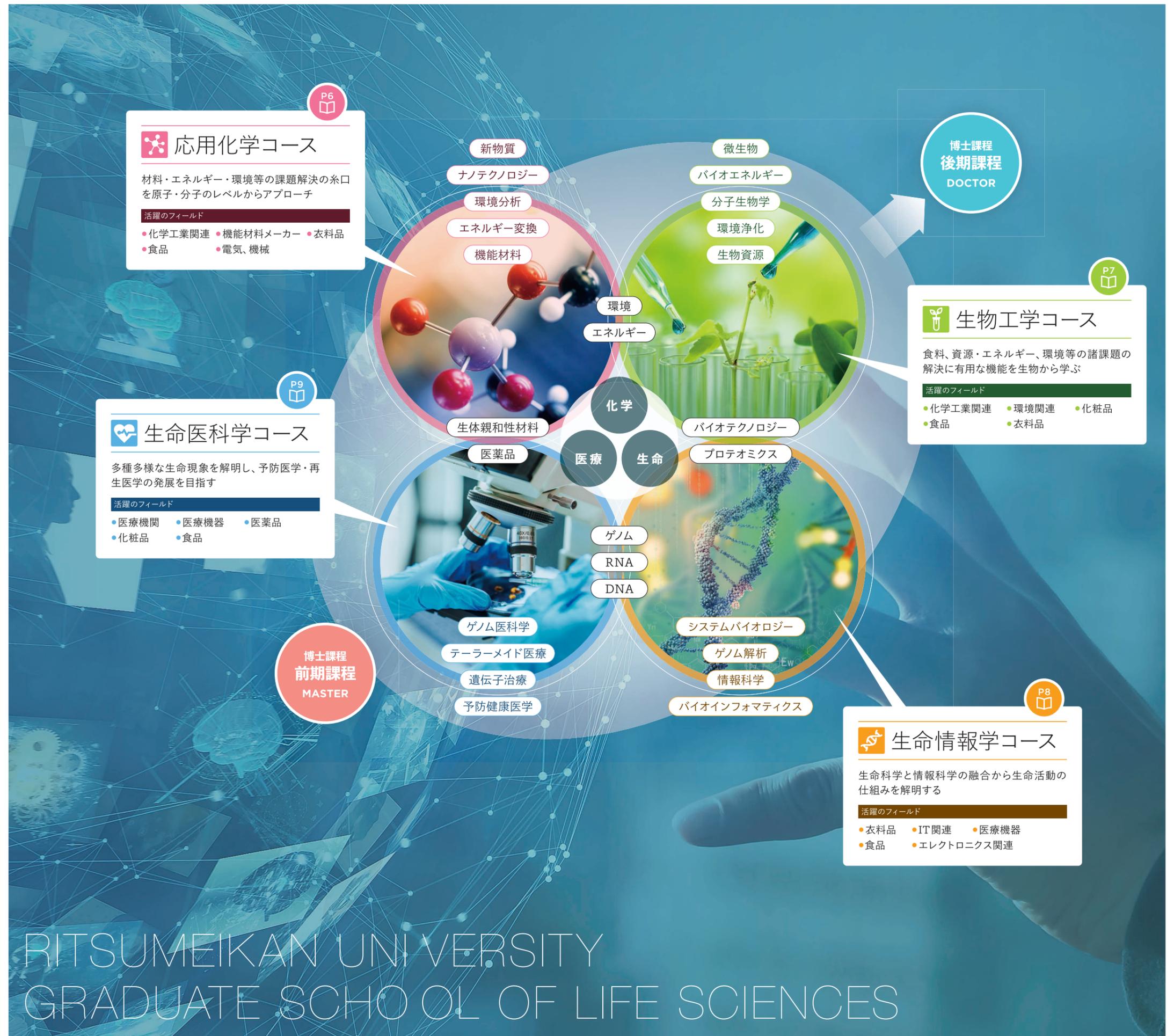
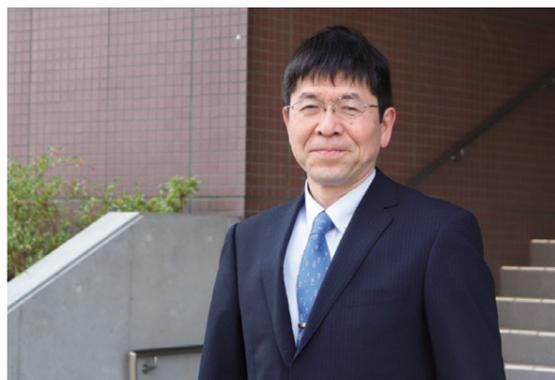
ライフサイエンス分野を探索する
4学科を融合させた学部での学びと
大学院での最先端の研究を通して、
エネルギー、環境、食料、医療、健康分野といった
幅広い分野への応用と貢献を可能にする
人材を育成します。

現代社会は、地球規模において、かつ、様々な分野において解決しなければならない様々な課題に直面しています。そのなかでも資源・エネルギー問題、環境問題、食糧問題ならびに医療問題は、世界の四大問題とも言える課題ではないでしょうか。これらの課題を解決するためには、工学、理学、農学、医学、薬学などの基盤となる学問に加えて、これら互いの境界から、あるいは融合することで発展してきた生命科学がさらに発展し、その発展から生まれてくる研究成果を社会実装していくことが必要です。

生命科学研究科の特色は、工学、理学、農学、医学、薬学を基盤とする、あるいは基盤として新たに発展した応用化学、生物工学、生命情報学、および生命医科学の4つの学問分野で構成されていることです。すなわち、上述した四大問題に対応するうえで必要となる学問領域を概ねカバーしています。

生命科学研究科での学びと探究は、現代社会が抱える様々な課題にチャレンジし、より豊かな社会を創出したいと望んでいる学生の皆さんの期待に十分に答えることができると自負しています。

生命科学研究科長 若山 守



RITSUMEIKAN UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF LIFE SCIENCES

カリキュラム

修了要件

[前期課程]

科目区分	必要単位数	合計	
共通科目	4単位以上	30単位以上	
専門科目	コア科目		6単位以上
	選択科目		10単位以上
研究科目	16単位		

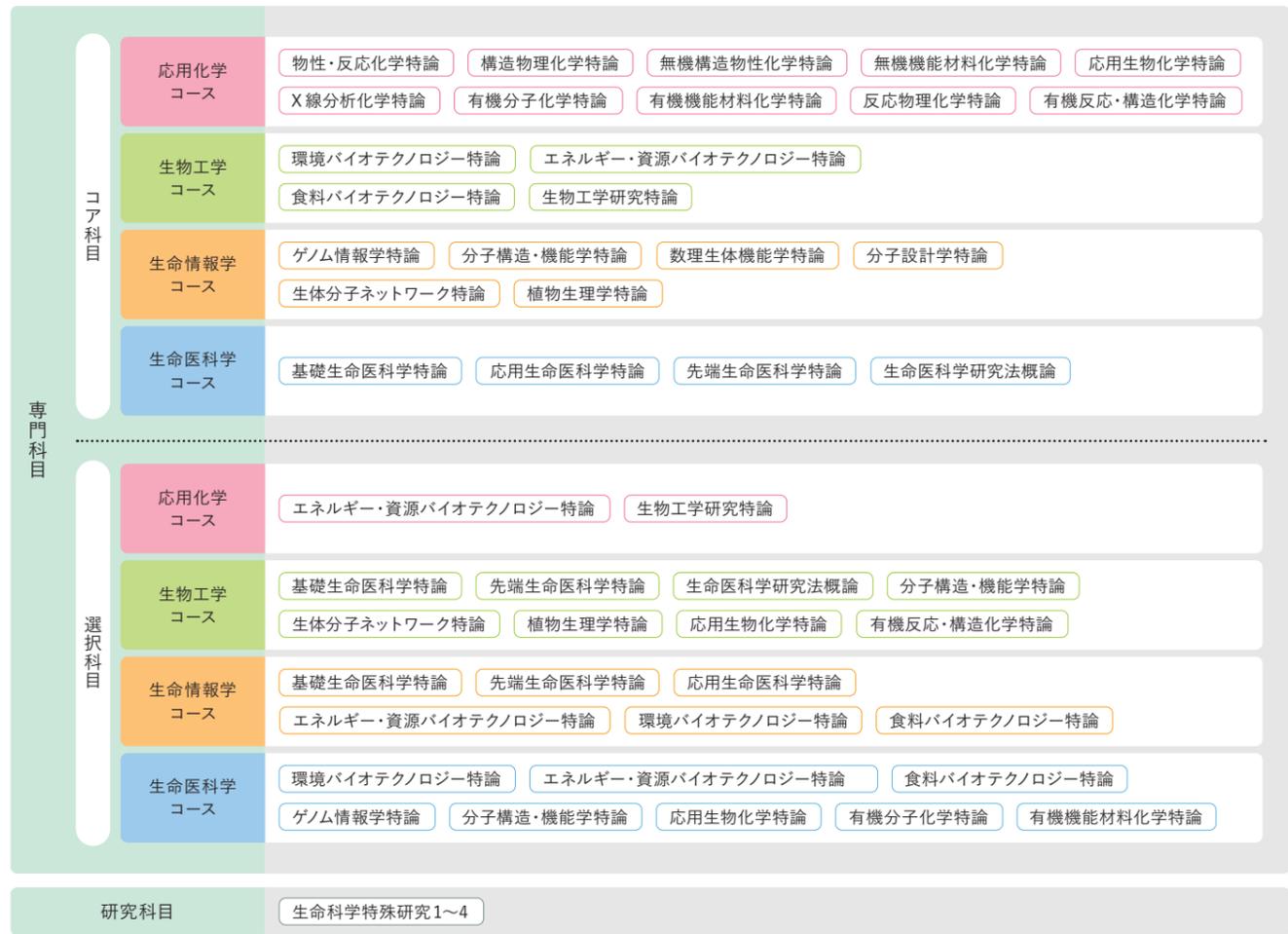
[後期課程]

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

科目

[前期課程]

共通科目 (全コース共通)	科学技術表現 産業・医療管理特論 知的所有権概論 技術経営特論 特殊講義 (共通) 技術者実践英語特論 ※自由科目
---------------	--



[後期課程]

専門科目 (自由科目)	英語研究発表演習, 費用対効果評価特論I, 費用対効果評価演習I
研究科目	生命科学特別研究1~6

「医薬品、医療機器及び再生医療等製品の費用対効果評価のための人材育成事業」にて、本大学および京都大学、北海道大学3大学での事業受託を受け、後期課程を対象としたHTA(医療技術評価:Health Technology Assessment)教育プログラムとして2025年度新規開講。

学部独自海外留学プログラム

生命科学研究科では、「専門領域における日本語または英語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有する」人材の育成に向けて、院生向けの単位授与を伴う海外留学プログラムを複数実施しています。英語力を高めたい方、将来グローバルな場での活躍を目指す方の参加をお待ちしています。



マレーシアプトラ大学 ライフサイエンスプログラム

夏期休暇中の2週間、生命科学研究科での学びの発展として、海外のライフサイエンス系大学にて行う海外留学プログラムです。マレーシアプトラ大学は、世界大学ランキング上位に位置するマレーシア屈指の名門国立大学で留学生受入れに非常に積極的な大学です。留学先がアジア圏であることに加え、奨学金もあることから比較的安価で参加できます。

- プログラムの特徴
- 現地研究室での実験・インターンを英語で体験できる
 - 少人数グループごとに現地学生バディが付きプログラムを通して参加者を手厚くサポート。バディとのコミュニケーションを通して異文化やダイバーシティへの理解が深まる
 - 歴史的建造物やマレーシア国家遺産の森林研究所でのフィールドワークなど、サイトビジットも実施。マレーシアの多様な文化や自然環境、生物多様性について学べる
 - プログラムの事前準備および英語力向上のための事前・事後学習も充実
 - 帰国後単位授与あり



Global-ready Graduate Program (GRGP)

海外の大学や研究所等で研究活動・学修を行うプログラムです。留学先や留学期間は、学生自身が研究室指導教員や留学先機関と相談し決定します。留学先および期間によって奨学金の利用が可能です。

- プログラムの特徴
- 双方向型の事前授業を通して英語力を集中的に鍛える。特に、プレゼンテーションスキル、ライティングスキルが向上
 - 海外の大学や研究所等で武者修行を通して異文化適応力が向上。同時に、多少の困難にめげずに乗り越える力を身につけられる
 - 留学後、その成果をさらに発展させるためのフォローアッププログラムや各種シンポジウムを開催。多様な背景を持つ仲間と積極的な議論することで、新たな知見が獲得できる
 - 帰国後単位授与あり

生命科学研究科グローバルステージ奨学金の新設

生命科学研究科グローバルステージ奨学金は、国際的なステージで活躍する人材を育成することを目的として2024年度より新設された奨学金です。当奨学金は3種あり、海外留学や国際学会発表など国際的な活動にかかる費用を補助します。

種類	奨学金名称	支給額
スキームA	プログラム奨学金	1~20万円(プログラムによって異なる)
スキームB	〈海外現地参加〉国際学会奨学金	3~6万円(地域によって異なる)
スキームC	〈国内参加〉国際学会奨学金	2万円

スキームA「プログラム奨学金」は、以下のプログラム参加者に対し、渡航に関わる一部費用を補助する制度です。奨学金額等詳細は、各プログラム参加者募集時にお知らせします。

- マレーシアプトラ大学ライフサイエンスプログラム
- インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム
- Global-ready Graduate Program
- ストラスブル大学交換留学プログラム

応用化学コース

Applied Chemistry Course



材料・エネルギー・環境等の課題解決の糸口を原子・分子のレベルからアプローチ

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

[研究室]

研究室名	担当教員	研究テーマ
無機触媒化学研究室	稲田 康宏	金属触媒の機能の原理を理解し、次世代の材料開発へ
無機電気化学研究室	折笠 有基	固体電気化学に立脚したエネルギー変換デバイスのブレークスルー
生体物理化学研究室	加藤 稔	生体分子の構造形成機構に関する分光研究
錯体機能化学研究室	桑田繁樹	新しい金属錯体を設計し、窒素、二酸化炭素などの不活性小分子の変換に応用する
生命無機反応化学研究室	越山 友美	生体高分子を利用した化学反応場の設計・構築と機構解明
光機能物理化学研究室	小林 洋一	物理化学を基盤として、光エネルギーを最大限活用したこれまでにない機能性材料を創出する
生命有機化学研究室	五月女 宜裕	分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる
生物機能分析化学研究室	高木 一好	酵素が触媒として作用する、生物における酸化還元(レドックス)反応について理解を深める
高分子材料化学研究室	堤 治	ナノテクノロジーを駆使した「分子デザイン」と「分子集合状態制御」による未来材料の創製
レーザー光学研究室	長澤 裕	フェムト秒パルスレーザー測定による光化学反応ダイナミクスの原理解明と応用探求
有機材料化学研究室	花崎 知則、金子 光佑	新規な機能性有機材料を設計・合成しその応用の可能性を探る
超分子創製化学研究室	前田 大光	未踏分子の合成・集合化により電子・光機能材料を自在に創製する

PICK UP

分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる

[生命有機化学研究室] 担当教員：五月女 宜裕

私たちは、酵素—自然界の触媒—が促進する生命反応から発想を得て、独自の触媒反応を開発しています。これにより従来の方法では手に入ることのできない新奇分子をつくる研究を行なっています。さらには、これらのオリジナル分子を用いて生命反応を制御することを目指したケミカルバイオロジー研究にも挑戦しています。



生物工学コース

Biotechnology Course



食料、資源・エネルギー、環境等の諸課題の解決に有用な機能を生物から学ぶ

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究、ならびに、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

[研究室]

研究室名	担当教員	研究テーマ
バイオエネルギー研究室	石水 毅	植物糖質関連酵素の解析と糖質化合物の機能解析
植物分子生物学研究室	笠原 賢洋	植物・微生物の環境応答の分子メカニズムの解明
生体分子化学2研究室	菊間 隆志	微生物の細胞内分解機構と分泌機構を解明する
食料バイオテクノロジー研究室	竹田 篤史	ゲノム編集を利用したウイルス・ウイロイド抵抗性植物の分子育種
生体分子化学1研究室	武田 陽一	糖質関連分子プローブの創製による糖鎖機能の解明
構造生命科学研究室	松村 浩由	自然環境の改善と創薬に貢献する構造生命科学
応用分子微生物学研究室	三原 久明	微生物の代謝経路の解明
酵素工学研究室	若山 守	酵素および発酵を利用した有用物質の生産法の開発

PICK UP

植物・微生物の環境応答の分子メカニズムの解明

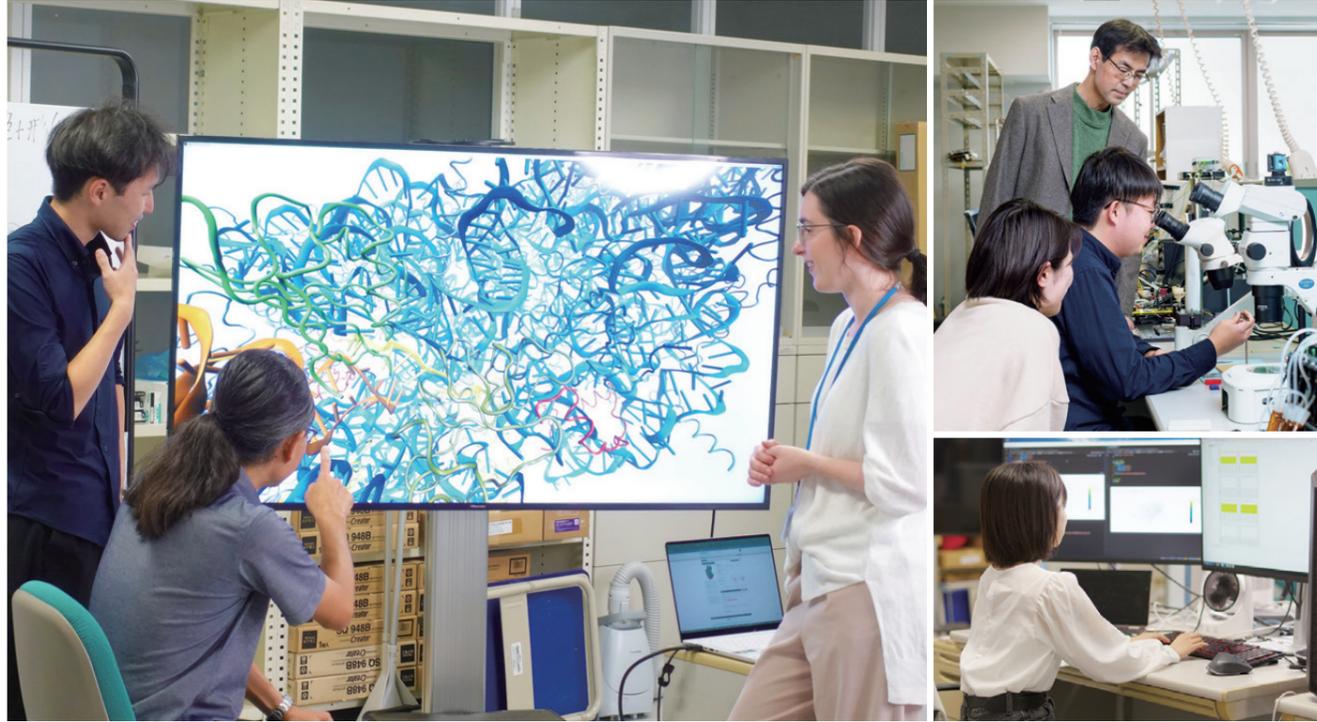
[植物分子生物学研究室] 担当教員：笠原 賢洋

生物は様々な刺激に的確に反応して環境適応しています。細胞には、そのために必要な、光や温度などの環境刺激を感じるセンサー、刺激を細胞に伝える低分子物質やシグナル伝達タンパク質から成る分子機構があります。私の研究室では、植物・微生物の光に対する細胞・生物応答や、cAMPシグナル系の分子機構の解明をめざして研究を行っています。



生命情報学コース

Bioinformatics Course



生命科学と情報科学の融合から生命活動の仕組みを解明する

生命情報学コースでは、コンピューター（情報科学）を利用して、生命活動の仕組みを解明することを目的として、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造-機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学、薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

[研究室]

研究室名	担当教員	研究テーマ
組織機能解析学研究室	天野 晃	詳細な細胞モデルに基づいて組織・臓器の機能を解明する
情報生物学研究室	伊藤 将弘	ゲノム情報から生命システムを理解する
脳回路情報学研究室	木津川 尚史	運動のリズムと脳のリズム：リズムから読み解く神経情報処理
計算構造生物学研究室	高橋 卓也	生体分子の構造と機能の関係を計算科学によって解明し、応用につなげる
生体分子ネットワーク研究室	寺内 一姫	光合成微生物を用いた環境適応の分子メカニズム解明
生物計算研究室	富樫 祐一	情報処理機械としての生物を数理モデルを用いて理解する
植物生体膜機能研究室	長野 稔	植物の生育や環境ストレス耐性における生体膜の機能を理解する
植物分子生理学研究室	深尾 陽一郎	植物の環境ストレス耐性に関わる分子機構の解明

PICK UP

計算機の中に細胞や臓器のデジタルコピーを作る

[組織機能解析学研究室] 担当教員：天野 晃

近年の生命科学分野の研究で細胞内分子の働きに関する情報は爆発的に増えていますが、これらの情報を医療に活かすためには、膨大な数の分子がどのように協調して細胞や臓器の機能を実現しているかを理解する必要があります。たくさんの分子を組み合わせた数理モデルを作ること、組織や臓器、ひいては個体がどのようにして動いているかを理解することを目指しています。



生命医科学コース

Biomedical Sciences Course



多種多様な生命現象を解明し、予防医学・再生医学の発展を目指す

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

[研究室]

研究室名	担当教員	研究テーマ
幹細胞・再生医学研究室	川村 晃久	体細胞初期化および幹細胞分化の分子機構解明とその再生医学への応用
タンパク質修飾生物学研究室	白壁 恭子	タンパク質修飾が生命現象を生み出す仕組みと疾患への影響
疾患細胞免疫学研究室	立花 雅史	免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発
薬理学研究室	田中 秀和	脳の豊かな適応力と神経回路のリモデリング
プロテオミクス研究室	早野 俊哉	疾患プロテオミクス解析
病態生理代謝学研究室	向 英里	糖尿病の発症解明とその治療と予防に向けた研究
医療政策・管理学研究室	森脇 健介	医療技術の価値を評価し、政策上の意思決定を支援する

PICK UP

免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発

[疾患細胞免疫学研究室] 担当教員：立花 雅史

骨髄由来免疫抑制細胞 (Myeloid-derived suppressor cells; MDSC) は、生体の恒常性が崩れた際、すなわち、疾患が引き金となって出現する細胞です。恒常性を元の健康な状態に戻すには、MDSCの除去や機能阻害が有効であると考え、MDSCを標的とした新規疾患治療法の開発を目指し、その分化・増殖・機能の詳細なメカニズムの解明に取り組んでいます。



(STUDENT VOICE)

教えて先輩!



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 子供のころから身の回りに起こる現象とその原理に興味を持っており、勉強していくうちに化学が好きになりました。そして、そのような新たな事象を自らの手で作り出すことや解明することに憧れを抱くようになり、研究開発の仕事に就きたいと考えました。そのため、研究を行う上で必要な専門知識や洞察力などを磨き、社会へ貢献する研究者になりたいと考え、大学院への進学を希望しました。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

▲ 光によって色が変化する反応を示すナノ材料の研究を行っています。このような材料は空気中の酸素によって反応が阻害されることがあります。これを、大気中でも応用できるように超分子ゲルなどを用いて研究を行っています。また、多くの装置を用いて数時間にかけての長い時間の反応やフェムト(10-15)秒というとても短い時間の反応まで幅広い時間単位で変化を追跡しています。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

▲ 学会に参加することで、多くの研究者と議論する機会が増えました。他大学や企業の研究者との議論を通じて、ラボ内では得られなかった新たな視点や知識を得ることができ、自身の研究をより深めることができました。また、学会では海外の方とも議論する機会があり、このような英語での議論は大学院進学によって得られた貴重な経験だと思います。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

▲ 学んだ知識や経験を生かして、研究開発を通じて社会に貢献したいと考えています。そのためには、自身の研究と社会問題との関連を見出す必要があると思います。大学院で培った研究の知見や専門性を応用し、持続可能な社会の構築に挑む研究者になりたいと考えています。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 大学院での生活は自分の興味を深めることができる期間です。楽しい研究生生活を送ってください!

VOICE
01
応用化学コース

中井 祐貴 さん

[光機能物理化学研究室]
進路: 立命館大学生命科学研究科
博士課程後期課程 進学



VOICE
02
生物工学コース

三島 夕佳 さん

[構造生命科学研究室]
進路: 沢井製薬株式会社



教えて先輩!



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 将来、研究職に就きたいと考えていたため、入学当初から大学院進学は考えていました。そして、専門性を高め、研究者としての素養を身につけるためにも院進学は必要と感じていました。実際に研究室に配属され、卒業研究のテーマを進めていく中で、自身のテーマへ愛着が湧き、もっとこの研究を続けたい想いが強くなったのも理由の一つです。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

▲ タンパク質の構造機能解析に取り組みました。私は、治療薬の開発が必要なウイルスを研究対象としています。なかでもウイルス複製時に必須なタンパク質に着目しており、そのタンパク質の機能解明に取り組んでいます。タンパク質の培養から精製、さらにX線を用いてタンパク質の構造解析を行うなど様々な機械を使って実験をしています。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

▲ 学部時代の学びをより専門的に学べた事と論理的な思考力を身につける機会に恵まれた事です。先生方にはとても相談しやすく、研究室のメンバーとは毎日のお互いの実験について話すような環境でした。自分以外の意見を積極的に取り入れることで視野を広げることができたと思います。また、研究室内の論文抄読の時間や学会発表を通して、情報を整理して相手に伝える力も身につけることができ、就職活動の際にも役立ちました。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

▲ 大学院修了後は、患者様にとって負担の少ない薬の開発に貢献したいと考えています。研究内容は現在と大きく変わりますが、研究活動を通して身につけた論理的思考力や実験結果の考察の仕方などを活かして新しい分野にチャレンジしていきたいと思っています。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 日々試行錯誤するなかで大変なことも多いですが、一つ一つの活動が自分自身の成長に繋がると感じました。研究室メンバーと切磋琢磨しながら有意義な研究生生活を送ってください。

中井さんの
ある1日の過ごし方



① 9:00~12:00 | ゼミ

一週間に一度、研究の進捗を報告する研究会があります。自身の発表は約1ヶ月に一度あります。研究会での質問や議論を通じて、自身の研究内容を発展させたり、知識を深めたりしています。

③ 13:00~20:00 | 実験・解析

午前中にゼミがある日は、午後から実験を行います。主に、物質の照射中や照射後の動的な吸収変化の測定を行っています。測定に時間がかかる場合は、その合間に次の試料の準備や測定結果の解析を行います。

② 12:00~13:00 | 昼食・測定準備

午後の実験のために、試料の濃度調製や装置の立ち上げを行います。光を用いる装置は光源を安定させるため、立ち上げ後に約30分の待ち時間が必要です。また、準備の合間や装置立ち上げの待ち時間などに昼食を食べています。

④ 20:00~22:00 | 解析・データ整理

実験中に終わらなかった測定データの解析と結果の考察を行います。また、翌日以降の実験をスムーズに進めるため、得られた結果を基に次の実験計画を立てます。

三島さんの
ある1日の過ごし方



② 11:00~12:00 | ランチタイム

最近は研究室のメンバーと一緒に学内のキッチンカーや弁当販売に行っています。ご飯の時間は息抜きになっています。遠心分離は待ち時間が1時間の時もあるのでその時間をランチタイムと被せて時間を有効活用しています。

④ 20:00~21:00 | 片付け&帰宅

実験器具の洗いをしたり、その日の実験データをまとめたりしています。実験が長い時はこの時間も実験をしていますが、研究室には何人かいるので楽しく過ごせています。

① 8:00~11:00 | 午前の実験 or 研究室ミーティング

朝はギリギリまで寝て9:00~9:30頃に研究室に行きます。通学時間はメールをチェックするようにしています。私の所属する研究室は週3回30分のミーティング(基本的には1つの論文をみんなで読み進める時間)があり、ミーティングがない日は実験準備や午前の実験をしています。

③ 12:00~20:00 | 午後の実験

お昼ご飯を食べた後は基本的に実験をしています。また、待ち時間は様々なことをしています。(論文、課題、データまとめ、実験ノートの作成など)

⑤ 21:00~0:00 | 自由時間

ご飯を食べた後は趣味の時間を楽しむなど家でゆっくりしています。寝る前に、次の日に行う実験の流れ(初めて行う実験の場合)やTo do リストをメモしておき、やるべきことを忘れないようにしています。

(STUDENT VOICE)

教えて先輩!



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 技術系の職種を目指すにあたって、大学院への進学は以前から考えていました。しかし、最終的な決断をしたのは、就職活動を通じて自分が学生生活で何かに本気で打ち込んだ経験がないと感じたことがきっかけです。大学院で一つの課題に真剣に取り組む、地道な努力を重ねることで、自分自身の成長を図りたいと思い、進学を決意しました。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか?

▲ 運動制御や認知機能に関わる脳部位である大脳皮質-大脳基底核回路の情報処理機構について、数理最適化に基づく理論を構築し、シミュレーションモデルを用いて解析を行いました。研究活動以外では、専修免許状を取得するための教職課程を履修し、指導教科に関する専門的な知識や力量を獲得することに注力しました。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか?

▲ 組織として何かに取り組む経験ができたことです。大学時代は部活等に所属していなかったため、チームでの活動経験がほとんどありませんでした。しかし、大学院では研究方針を立て、タスクを分担するなど、リーダーシップを発揮する場面も多くありました。また、助言を受けたり、議論を通じて意見を交換したりする中で、チームで取り組むことの意義や重要性を実感しました。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか?

▲ 研究活動で培ったマネジメント力や思考力、ITスキルを活かし、エンジニアとして教育のデジタル化を推進していきたいと考えています。また、将来的には高等学校教諭として、大学院での高度な学習を通して得た知見を教壇で活かしたいと思っています。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 大学院は、専門的な知識や新たな視点を得るための貴重な機会です。もちろん、困難もあるかもしれませんが、それを乗り越えることで自分自身の成長や目標達成が確実に近づきます。ぜひ、自信を持って積極的に挑戦し、自分の可能性を広げていってください。

VOICE
03
生命情報学コース

竹原 諒 さん
[脳回路情報学研究室]
進路: 東日本電信電話株式会社



VOICE
04
生命医科学コース

中谷 真由 さん
[幹細胞・再生医学研究室]
進路: 産業技術総合研究所



教えて先輩!



● 大学院へ進学した動機を教えてください。

▲ 学部生の時に就職活動を行った際に、研究職に就きたいという思いが芽生えたからです。そして、学部生では研究職としての募集が修士卒よりも幅が狭いと感じたため、大学院へ進学し研究の知識や経験を積む必要があると考えました。実際、修士卒以上が募集条件の職場に採用していただけたので進学してよかったです。

● 大学院ではどのようなことに取り組みましたか?

▲ 心臓の拍動のリズムを規定する洞房結節のエネルギー代謝様式に着目し、脂肪酸やブドウ糖、アミノ酸など、どのようなエネルギー基質がエネルギー生成を賄っているのかを解明することを目指し研究に取り組みました。学会発表を行い様々な意見を伺いながら研究を進めました。

● 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか?

▲ 研究者として一筋縄ではいかない研究の世界を知り経験することができたことが良かったです。実験をしても思うような結果が出ないことは多く、疑心暗鬼に駆られることもありましたが。学会に参加することで研究の面白さを再認識したり、一つ一つのことを丁寧に進めることの重要性など、今後に生きる研究のイロハを学ぶことができました。

● 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか?

▲ 分野にこだわらずに様々なことに挑戦をして研究者として社会に貢献したいです。就職先では無機化学系のグループに入るため、これまでのフィールドとは異なりますが大学院で学んだことを活かして多角的に考えることができる人材として課題解決に取り組んでいきたいです。

● 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

▲ 進学にあたって不安を感じている人もいるかと思いますが、少しでも興味があるのであればぜひ飛び込んでみてください。私自身が当時は不安しかなかったのですが今となっては進学して本当に良かったです。大学院だからこそ貴重な学びや経験ができると思うので恐れることなく希望だけを持って挑戦し続けてください。

竹原さんの ある1日の過ごし方



② 11:00~12:00 | 文献探索及び読解

自身の研究に関連する文献を探して読みます。一日一本の文献を読むことを目標に掲げており、常に新しい情報をインプットしながら思考を巡らせることで、アイデアの創出を促しています。日々、読解速度が向上していることを実感できるのも楽しみの一つです。

④ 14:30~16:30 | グループミーティング

教授を交えて研究テーマごとのメンバーで進捗発表を行っています。発表を通じて、研究の現状と課題を再確認するとともに、さまざまな意見を受けて研究方針を正しく定めるための重要な時間です。

① 9:30~11:00 | 輪読会

有志による輪読会を開催しています。各々の研究テーマに従って文献が選ばれるため、普段触れる機会のない分野について触れることができ、知識の幅が広がります。また、議論を通じて、自分にはなかった視点や考え方を学ぶことで、視野を広げる機会となっています。

③ 13:00~14:30 | シミュレーション実験

構築した理論の詳細を解析するためにシミュレーションを行っています。モデルの作成から、パラメータの調整、データの収集、さらにはデータ分析用のコーディングまで、全ての工程を日々コツコツと進めています。

⑤ 16:30~19:00 | データ分析・資料作成

シミュレーションで得られたデータを解析し、その結果をもとに考察を行います。また、それらを資料にまとめながら、今後のシミュレーション内容について考えます。一方では、輪読会や進捗発表の資料作成なども行います。

中谷さんの ある1日の過ごし方



① 10:00~10:30 | 実験計画等確認と準備

通学に片道2時間かかるので、その間にメールの確認やその日に行くことを整理します。研究室については実験の確認と準備(試薬の調製や実験装置のセッティング)をして間違いなくスムーズに進められるように出来るだけ段取りを行います。

③ 12:30~18:00 | 実験

実験は丁寧にやるのが重要だと思っているので、過失による誤差がないように慎重に行います。実験を初めたら装置の近くに付きっきりになることが多いですが、適宜休憩しながら進めます。短時間で終わる実験の時は、研究室の学生や先生たちと楽しく会話をします。

② 10:30~12:30 | 研究室ミーティング

毎週、研究室内で連絡事項等の確認や論文紹介を行います。自分の研究テーマとは少し離れた研究論文からも知識を得ることができ勉強になります。自分たちの研究についてはグループごとのミーティングが週に1回あるので、そこでディスカッションを行います。

④ 18:00~20:00 | 解析・まとめ・次回実験計画と準備

実験をしたら今度は得られたデータから解析を行いExcelやPowerPointを用いて結果をまとめる必要があります。ほとんどの場合、その日のうちに解析は完了しないため残りは後日に時間がある時になるべく早く行います。実験ノートにその日の記録が完了したら帰宅します。

学費・奨学金・支援制度

学費

[博士課程前期課程]

	1年次		2年次
	本学園出身者	他大学出身者	
入学金	—	200,000	—
授業料(春学期)	615,300	615,300	615,300
授業料(秋学期)	615,300	615,300	615,300
計	1,230,600	1,430,600	1,230,600

※上記以外に、院生協議会費4,000円、校友会費(他大学出身者のみ)30,000円が必要です。

[博士課程後期課程]

	1年次		2年次	3年次
	本学園出身者	他大学出身者		
入学金	—	200,000	—	—
授業料(春学期)	250,000	250,000	250,000	250,000
授業料(秋学期)	250,000	250,000	250,000	250,000
計	500,000	700,000	500,000	500,000

※上記以外に、院生協議会費4,000円が必要です。

奨学金

学内ではさまざまな奨学金や支援制度を設けています。出願に際しては、問い合わせ先、募集要項等で必ず確認をしてください。

[奨学金についての詳細はこちら]

https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/



1年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象 問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程に入学する者で、入試成績が優秀な者に対して給付する奨学金です。研究科が指定する入試方式の合格者で、入試成績が優秀な者を採用内定者に出出し、原則として合格発表時に合格者本人に通知します。 ※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる資金を得て入学を予定している者は対象外となります。

■種類・給付金額と給付人数の割合

成績優秀者に対して学期ごとに右記に記載の奨学金の半額を給付[※]します。 ※1年次の各学期の授業料の納入時に、授業料と相殺する方法により給付します。

給付額(年間)	300,000円
給付人数の割合	入学者数の30%程度



2年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象 問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程の2年次(第3・4学期)在学者を対象として給付する奨学金です。 ※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる奨学金等を得て在学する者、特別在学料を納入して在学する者は対象外となります。

■種類・給付金額・給付人数の割合

成績優秀者に対して学期ごとに下記に記載の奨学金の半額を給付^{※1}します。

給付額(年間)	I : 300,000円 II : 600,000円
給付人数	I : 在学者数の30% ^{※2} 程度 II : 最大10名 ^{※3} 程度

※1 給付方法の詳細については、募集要項を確認してください。
 ※2 春学期の募集は4月1日、秋学期の募集は9月26日時点での在学者数が基準となります。給付基準は総合評価の得点上位者となります。
 ※3 給付基準は生命科学研究科博士課程後期課程進学希望者の総合評価の得点上位者となります。

■募集時期

春学期募集：5月／秋学期募集：10月
 ※申請できるのは、第3学期在学時に限ります。

2022年度より、
 Iは給付人数の割合が10%増加、
 II(後期課程進学者)は給付額が30万円増額されました！



研究奨励奨学金

D 後期課程対象 問 教学推進課

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する者の授業料を補助することにより、当該課程における研究活動を奨励することを目的とした奨学金です。S・A・Bの3種類に種別されています。

種別	S給付	A給付・B給付
対象	日本学術振興会特別研究員の身分を有する者・申請年度採用の募集における2次選考候補者	各研究科の研究上の目的に照らして優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることが期待できる者 ※標準修業年限超過者は除く
給付金額・募集時期	〈支給額〉授業料相当額 〈通知〉5月頃、対象者にmanabaで通知	〈支給額〉A：授業料相当額 B：授業料の1/2相当額 〈募集時期〉6月上旬(予定)
採用実績(2024年度)	2名	A：2名(後期課程在学者総数の5%) B：5名(後期課程在学者総数の15%)



博士課程院生研究支援奨学金

D 後期課程対象 問 RARAオフィス

博士課程後期課程在学者を対象に、優れた研究計画に対して、実現に向けた経済的な負担を軽減し、在学中の学位取得に資する研究活動を促進することを目的に助成をおこないます。申請区分に応じて、1件あたり10万円・30万円・50万円のいずれかを審査の上、給付します。



Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) 学生フェロー

D 後期課程対象 問 RARAオフィス

本学の中核研究者の指導を受ける博士課程後期課程学生のうち、特に優秀な学生をRARA学生フェローとして選抜・認定を行った上で、育成支援を行うプログラム。研究活動支援金が最長3年間にわたって支給されます。



支援対象者数	60名程度(1年次/40名程度、2年次/10名程度、3年次/10名程度)
支援内容	① RARA×SPRING：研究活動支援金(年額222万円)と研究費(最大34万円) ② RARA×BOOST：研究活動支援金(年額222万円)と研究費(最大168万円)

育志賞

D 後期課程対象 問 RARAオフィス

将来の活躍を期待される優秀な若手研究者を奨励するために、平成22年当時の天皇陛下により創設されました。毎年、全国約7.5万人の博士課程後期課程大学院生を代表して、人系、理工系、生物系各分野から優秀な大学院生が推薦され、受賞者が確定します。受賞者には、賞状、学業奨励金(110万円)の贈呈と日本学術振興会特別研究員に採用され研究奨励奨学金が支給されます。



教学リサーチアシスタント(RA)

D 後期課程対象 問 RARAオフィス

研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事することにより、研究力量の向上や研究成果の創出につなげ、国内外の教育、研究機関、企業(研究職)等で活躍できる若手研究者の育成を目指します。また、経済的にも支援することにより、研究に専念できる環境づくりにつなげます。

日本学術振興会特別研究員を目指している方へ

特別研究員制度は、日本トップクラスの優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る目的で独立行政法人日本学術振興会が実施する制度です。特別研究員に採択された方には、研究奨励金が支給されます。採択者の多くは常勤の研究職に就いており、若手研究者の登竜門と言われています。将来、研究職を目指している方、後期課程進学を考えている方は、ぜひ挑戦してみてください。

申請区分

DC1 後期課程進学時[※]に申請する区分

採用期間	3年間
研究奨励金	月額20万円(支給予定額)
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	修士課程・博士課程前期課程2回生5月時点 [※] までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。

DC2 後期課程在学時[※]に申請する区分

採用期間	2年間
研究奨励金	月額20万円(支給予定額)
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	申請時 [※] までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。

※課程により、時期が異なる場合があります。詳細については、募集要項を必ず確認してください。

[特別研究員制度についての詳細はこちら]

https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/doctor/article.html/?id=39

